

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	6 地すべり防止				補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針	
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況				
1	ひかげり 日影入 (箕輪町)	山腹工1.20ha アンカー工386本 暗渠工(ボーリング) 2,035m (工期:H20~H27)	山腹工0.10ha アンカー工75本	山腹工0.10ha アンカー工7本	山腹工0.50ha アンカー工289本	必要性	42%	計画どおり進んでいる。 H22までに暗渠工は100%、アンカー工は25% が完了。 H23は引き続きアンカー工を実施する。	地すべりの発生により林道が被災したが、規模が大きく下流への影響が大きい上、2市町を結ぶ重要な路線の交通の安全確保上緊急を要するため、事業の継続が必要である。	緊急性が認められる	「継続」	
						重要性						特記事項 H22変更 暗渠工(ボーリング)705m増 事業費469,00千円増 工期延長3年 詳細な地すべり調査と機構解析の結果、当初の想定よりも地すべり規模が大きいことが判明したため、計画の変更が必要となった。
						効率性						B/C(費用対効果)=3.30
						緊急性						住民参加状況等 地元が「維持管理会」を組織し、林道の維持管理を行っている。
2	ながくほ 長久保 (安曇野市)	谷止工2個 山腹工5.00ha 集水井7個 排土工14,000m3 押さえ盛土工 9,000m3 ほか (工期:H20~H25)	山腹工5.00ha 集水井工3個	山腹工5.00ha 集水井工3個	山腹工5.00ha 集水井3個 排土工14,000m3 押さえ盛土工 9,000m3 ほか	必要性	67%	計画どおり進んでいる。 H22までに谷止工2個と集水井7個中4個完了。 H23は引き続き残る集水井3個を実施。	平成19年5月に発生した地すべりが沢を閉塞したため緊急対応として谷止工を優先して実施してきたが、平成21年5月に地すべりが再活動するなど不安定な状態で推移しているため、早期に地下水を排除して安定化させるよう事業を継続する必要がある。	重要性が高く、必須性、緊急性も認められる。	「継続」	
						重要性						特記事項 H22変更 集水井増、事業費3億2,000万円増、工期2年延長 H21年5月に施工区域内において地すべりが再活動したため、再調査と対策工の見直しを行った。
						効率性						B/C(費用対効果)=3.20
						緊急性						住民参加状況等 地すべり監視体制の中に地元区も参加している。
3	あげらう 上竜 (大町市)	谷止工1個 山腹工0.65ha 土留工17個 水路工710m 伏工5,220㎡ ほか (工期:H16~H24)	休止	山腹工0.08ha 土留工3個 水路工100m 伏工1,000㎡ ほか	谷止工1個 山腹工0.08ha 土留工5個 水路工150m 伏工2,000㎡ ほか	必要性	64%	H23はH21,H22の経過観察中に新たに発生した山腹崩壊箇所の復旧を行う。	H18年度から地すべり防止事業で計画的に事業を実施している箇所、H21・22年度は経過観測のため一時休止していたが、H22年7月豪雨により計画地内の一部が崩壊し、土砂が市道に流出したため、事業を継続して追加対策を実施する必要がある。	新たな崩壊に対する追加対策の必要性が認められる。	「拡大」	
						重要性						特記事項 H21、H22経過観察により休止。 H23変更 谷止工1個減 山腹工0.23ha増 事業費2,060万円増 工期延長4年 経過観察の結果、自然復旧がされた渓流への谷止工実施を見送り H21年9月、H227月豪雨により地すべり防止区域内で新たに山腹崩壊が発生したため、対策工を追加。
						効率性						B/C(費用対効果)=1.84
						緊急性						住民参加状況等 特になし

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	6 地すべり防止				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
4	こづちやま 小土山 (小谷村)	山腹工 5.76ha 集水井工5個 暗渠工(ホ-リング) 4,680m 水路工 600m [工期:H22~H30]	山腹工5.76ha 暗渠工(ホ-リング) 1,050m	山腹工5.76ha 集水井工1個 暗渠工(ホ-リング) 350m	山腹工 5.76ha 集水井工5個 暗渠工(ホ-リング) 3,630m 水路工 600m	必要性 A	18%	計画どおり進んでいる。 H22は地すべり解析調査と暗渠工を実施。 H23より集水井等の本格的な対策工に着手する。	平成20年に地すべりが再活動しており、拡大した場合には直下の姫川をせき止め、国道、鉄道、人家に甚大な被害が及ぶため、事業を継続し、地すべり対策をさらに進める必要がある。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 H20.3月融雪災 地すべり防止施設災害復旧対応箇所				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=2.89				
						緊急性 A	住民参加状況等 過去には植樹祭も行われ、塩の道のルートもあることから維持管理を行っている。				
5	にこりさわ 濁沢 (小谷村)	谷止工6個 [工期:H15~H23]	谷止工1個	谷止工1個 流路工106m	谷止工1個 流路工106m	必要性 A	70%	計画どおり進んでいる。 H22までに谷止工5個が完了。H23は残る谷止工1個と流路工を実施し、概成予定。	奥地であるが崩壊の規模が大きく、中小降雨でも土石流が頻発しているため、発生源における渓床堆積物の固定を図るため事業を継続し、H23年度での概成を図る。	平成23年度での概成を図る。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.02				
						緊急性 B	住民参加状況等 融雪期に地権者である地域住民が現場周辺の所有森林の見回りを行っている。				
6	あまこ 秋古 (長野市)	山腹工3.20ha 暗渠工(ホ-リング) 5,936m 杭打工31本 アンカー工66本 法枠工702㎡ 排土工500m3 ほか [工期:H14~H23]	山腹工3.20ha 杭打工14本 アンカー工32本	山腹工3.20ha 法枠工 (鉄筋挿入工)44本	山腹工3.20ha 法枠工 (鉄筋挿入工)44本	必要性 B	93%	計画どおり進んでいる。 H22までにアンカー工、杭打工等の主要工種を完了。H23は法枠内の鉄筋挿入工を実施し、概成予定。	H16年台風23号豪雨の際に地すべりが再活動して国道19号線に被害が及ぶおそれが生じた箇所であり、国道の通行の安全確保のため事業を継続する必要がある。H22年の再活動の状況を精査しつつ対策工を実施し、H23年度での概成を図る。	平成23年度での概成を図る。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.02				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	6 地すべり防止				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりかき箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
7	しんやす 新安 (長野市)	山腹工1.50ha 土留工1個 暗渠工(ホ-リング) 1,700m 法枠工2,000m ² 鉄筋挿入工575本 切土・排土工 17,000m ³ ほか 〔工期：H19～H24〕	山腹工1.50ha 法枠工700m ² 鉄筋挿入工196本 切土・排土工 4,920m ³ ほか	山腹工1.50ha 法枠工1,300m ² 鉄筋挿入工379本 切土・排土工 5,600m ³	山腹工1.50ha 土留工1個 暗渠工(ホ-リング) 416m 法枠工1,300m ² 鉄筋挿入工379本 切土・排土工 12,080m ³ ほか	必要性 C	55%	H22までに暗渠工の75%と法枠工の35%、切土・排土工の30%を完了。 H23年度は引き続き切土・排土工と法枠工及び鉄筋挿入工を実施する。	平成20年3月の融雪災害により市道が大きく被災し、地すべりの末端が下方河川まで達する状態となったため事業を継続して実施する必要がある。	重要性、緊急性は認められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 H23変更 切土工・排土工7,500m ³ 増、鉄筋挿入工90本増、事業費8,290万円増、工期延長1年 対策工実施中の効果判定の結果、切土工・排土工と鉄筋挿入工の数量増が必要となったため変更。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=1.20				
			3億1420万円	9060万円	1億890万円	1億4140万円	緊急性 A	住民参加状況等 地元区により北浦地区地すべり対策委員会が設けられ、地すべり現象や危険箇所の把握などにおける地域との連携体制をとっている。			
8	ななくほ 七久保 (長野市)	山腹工5.00ha 土留工10個 実播工20,000m ² 暗渠工1,117m 暗渠工(ホ-リング) 8,000m 集水井工10個 杭打工40本 排土工70,000m ³ 水路工4,220m ほか 護岸工60m 〔工期：H16～H25〕	山腹工5.00ha 水路工717m 暗渠工120m 暗渠工(ホ-リング) 715m	山腹工5.00ha 暗渠工30m 暗渠工(ホ-リング) 900m	山腹工5.00ha 土留工10個 実播工20,000m ² 暗渠工660m 暗渠工(ホ-リング) 1,986m 集水井工2個 杭打工40本 排土工63,390m ³ 水路工413m ほか 護岸工60m	必要性 A	66%	地すべりの活動が継続中であり、集水井、暗渠工の施工による地下水排除を重点的に行っている。 H23は暗渠工(ホ-リング及び地表)を実施する。	活発な活動を続けている地すべりであり、再活動時には裾花川を閉塞させる危険が高いため、地すべり全体の安定化と末端部の固定を早期に達成させるために、対策工効果を精査しつつ事業を継続する必要がある。	必要性、重要性が認められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 H23変更 集水井2個増、暗渠工(ホ-リング)2,000m増、事業費1億1,090万円増 対策工実施中の効果判定の結果、地下水の排除をさらに実施する必要があるため、対策工を増。 平成19年度より学識経験者等による検討委員会が発足。最新の観測結果に個づき対策工の検討を行いつつ、事業を進めている。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.10				
			17億8320万円	9940万円	5860万円	5億9950万円	緊急性 B	住民参加状況等 特になし			
合計	8箇所	60億2520万円	8億770万円	7億800万円	25億3095万5千円			A:配点の75%以上 B:50%以上75%未満 C:50%未満			